5　活動報告（Ⅳ　全体）

①　地域活性化フォーラム

地域と大学で今後の地域活性化に向けての方向性を共有する場として、県内で特定のテーマに絞った地域活性化に向けた取組みを紹介する「地域活性化フォーラム」を開催しました。

文部科学省
地(知)の拠点

四国大学ＣＯＣ事業

第５回四国大学地域活性化フォーラム

私たちが地域で目指すこと
―企業と起業と人材育成―

地元雇用の創出は、地域活性化に取り組む地域と地元就職を促進する大学の共通した課題のひとつです。地（知）の拠点大学である四国大学でも、平成２６年から大学ＣＯＣ事業『とくしまで学び育てる地域貢献型人材育成事業』に取り組んでおり、このフォーラムはこの事業の一環として、地元雇用の創出をテーマに開催するものです。美波町での取り組みを中心として、それぞれの立場から「今、起こっていること」、「これから起こそうとすること」について情報を交換し、地域社会で求められる人材や大学のあり方について、地域・企業・大学で認識を共有したいと考えています。

平成２９年
３月５日（日）
13：00～16：00

入場料　無料
事前申込　不要

メイン会場
美波町コミュニティホール
（海部郡美波町奥河内字本村２２－１）

西部会場
四国大学西部地区
スーパーサテライトオフィス
（美馬市脇町大字脇町１３０３番地３）

四国大学会場
四国大学３０周年記念館
２階　Ｎ２０９教室
（徳島市応神町古川）

「サテライト双方向遠隔講義システム」
を使用した３拠点同時フォーラム

【第１部 13:00～14:00】

開会挨拶　四国大学長　松重　和美

「美波町の地域活性化への取り組み」
美波町長　影治　信良 氏

「県南域の地域振興策について（仮）」
徳島県南部総合県民局長　小泉　憲司 氏

【第２部 14:10～15:10】

「民間企業が展開する
地域活性化とは（仮）」
（株）あわえ代表　吉田　基晴 氏

「移住、起業、地域とのつながり」
まめぼんカフェ　園木　裕介 氏

【第３部パネルディスカッション 15:20～16:00】

テーマ「大学と地域のつながり」
～地域が求める活躍できる人材や
大学のあり方、産学官連携、
地域活性化のゴールとは？～

モデレーター：　四国大学長　松重　和美
パネラー：美波町長　影治　信良 氏
徳島県南部総合県民局長　小泉　憲司 氏
（株）あわえ代表　吉田　基晴 氏
まめぼんカフェ　園木　裕介 氏
道の駅日和佐駅長　森本　長生 氏

SHIKOKU UNIVERSITY
四国大学

【主催・お問い合わせ先】
四国大学　地域教育・連携センター
電話　088-665-9953　メール sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp

2017
7
1 土

14:00 ～17:00
（受付開始 13:30）

申し込み：事前申込制
メイン会場：ホテルクレメント徳島
4階クレメントホール
（徳島県徳島市寺島本町西１－６１）
定員：200 名
参加費：刊行、設立記念講演会無料
情報交換会：5,000 円（本代込み当日徴収）

みんな来てなぁ～
（入場料無料）

新あわ学研究所

大学的徳島ガイド×

文部科学省 地(知)の拠点
四国大学大学 COC 事業
第６回四国大学地域活性化フォーラム

― Program ―

＜挨拶＞
学校法人四国大学理事長　佐藤一郎
＜刊行の経緯と意義＞
四国大学長　松重和美
＜来賓祝辞＞
徳島県知事　飯泉嘉門
（一財）徳島県観光協会理事長　清重泰孝
（一社）徳島新聞社理事社長　米田豊彦
＜記念講演＞１４：３０～
（公財）徳島経済研究所専務理事　田村耕一
～藍で徳島を盛り上げよう！
＜講演＞１５：１５～
四国大学文学部教授　須藤茂樹
～阿波の城郭を歩く
四国大学看護学部教授　高橋順子
～ホスピタリティーからみたお接待
四国大学短期大学部教授　植田和美
～徳島の麺文化
＜閉会挨拶＞
新あわ学研究所長　松重和美

＜情報交換会＞１６：１０～
定員：100 名
会費：5,000 円（本代込み　デザートビュッフェ）

刊行・設立記念講演会

SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学

お問い合わせ先
四国大学　地域教育・連携センター
TEL:088-665-9953
mail:sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp

後援：徳島県　徳島市　美馬市　美波町　徳島県教育委員会　徳島市教育委員会　NHK 徳島放送局　四国放送
徳島新聞社　朝日新聞徳島総局　産経新聞社徳島支局　日本経済新聞社徳島支局 毎日新聞徳島支局　読売新聞徳島支局

四国大学 COC 事業

第７回 四国大学地域活性化フォーラム

文部科学省 地(知)の拠点

大学との連携による 勝浦地域の活性化について

入場無料

平成30年 3月4日(日) 13:00～15:00
(開場12:30)

●会 場　勝浦町地域活性化センター「レヴィタかつうら」
(勝浦郡勝浦町大字生名字太田 44 番地 1)

プログラム

【第1部　13:00～14:00】

●開会挨拶 ―― 四国大学 学長●松重　和美

●講演
「地元資源を活かした
地域活性化について」
株式会社あわえ 代表●吉田　基晴 氏

【第2部　14:10～15:00】

●パネルディスカッション

テーマ
「大学との連携による
勝浦地域の活性化について」

モデレーター● ―― 四国大学 学長●松重　和美

パネラー● 株式会社あわえ 代表●吉田　基晴 氏
マルチ園●大久保尚勇 氏
勝浦町地域活性化センター●大友　和紀 氏
四国大学文学部 学生●松田　和希 氏

●閉会挨拶 ― 四国大学総務・企画部 参事●石田　義夫

阿波勝浦ビッグひな祭り

期間：2月18日(日) ～ 4月8日(日)
9時～16時
会場：人形文化交流館
(勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬 35－1)
※徳島バス勝浦線
「人形文化交流館前」バス停下車すぐ
入場料：300円
小学生100円
団体10名以上200円

四国大学 書道文化学科学生による書道展

期間：2月18日(日) ～ 4月8日(日)
会場：レヴィタかつうら
(四国大学勝浦地区スーパーサテライトオフィス)
人形文化交流館 ※有料
風の駅さかもと

主催・お問合せ先　四国大学　地域教育・連携センター
〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川字戎子野 123-1
Tel　088-665-9953
E-mail　sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp
SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学

文部科学省 地(知)の拠点

「とくしまで学び育てる地域貢献型人材育成事業」の成果と今後の展開

入場無料

平成30年度大学COC事業

四国大学地域活性化フォーラム

日時

平成30年
12月15日(土) 13:30～15:30
(受付開始13:00～)

会場

四国大学　共通講義棟101教室

プログラム

■開会挨拶　学校法人四国大学理事長
佐藤　一郎

■来賓挨拶　徳島経済同友会代表幹事
坂田千代子 氏

■講　演

「次代に継承!とくしまレガシー
～「地方創生」成果実感～」
徳島県知事　飯泉　嘉門 氏

「先進的地域貢献大学:
さらなる地域連携の展開」
四国大学学長　松重　和美

■閉会挨拶　四国大学 総務・企画部参事
石堂　真道

申込締切・申込方法

平成30年11月30日(金)　定員300名(先着順)

裏面の参加申込書に「氏名・電話番号・所属名」をご記入のうえ、
FAXまたはメールにてお申込ください。
※当日参加もできますが、なるべく事前申込をお願いします。

SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学

5 活動報告（Ⅳ 全体）

② スーパーサテライトオフィスの開設と活動

地域住民・地方自治体・学生・教職員が集う場所として、地域貢献活動の拠点となるスーパーサテライトオフィスを、平成29年度に新たに勝浦町に開設しました。大学と地域をつなぐ窓口として、順調に活動しています。

坂本あかりの里（平成29年10月13日（金）、14（土））

勝浦地区 SSO 開所式（平成29年11月10日（月））

ひな祭り書道展（平成30年2月18日（日）～4月8日（日））

勝浦パネル展示（平成30年5月16日（水））

新聞掲載（スーパーサテライトオフィス活動関連）

四国大、勝浦にSO開設

3ヵ所目

四国大（徳島市）は24日、勝浦町生名の町地域活性化センター「レヴィタかつうら」に学生・教員の活動拠点となるサテライトオフィス（SO）を開設した。四国大がSOを置くのは美馬市、美波町に続いて3カ所目。

同センター前であった開所式には、松重和美学長や中田丑五郎町長ら関係者約50人が出席。松重学長が「地域活性化の取り組みを展開しやすくなる。地域に貢献できる人材の育成の場としても活用させていただきたい」とあいさつした後、看板を除幕して開所を祝った。

SOは同センター（鉄骨平屋298平方メートル）内に置き、地域とのコーディネーター役を務める町地域おこし協力隊員1人が常駐。学生らが施設の多目的スペースやオープンキッチンなどを使い、町特産の貯蔵ミカンを使った加工品開発やインバウンド（訪日外国人旅行者）向け観光企画の提案などに取り組む予定。（谷利彦）

サテライトオフィスの看板を除幕する四国大の松重学長（左から3人目）ら＝勝浦町生名の町地域活性化センター・レヴィタかつうら

平成29年 11月25日付け徳島新聞朝刊

SNSで魅力発信を

勝浦町活性化 四国大がフォーラム

四国大が4日、サテライトオフィス（SO）を置いている勝浦町の活性化について考えるフォーラムを勝浦町生名の地域活性化センター「レヴィタかつうら」で開いた。美波町の地域活性化支援会社「あわえ」の吉田基晴社長(46)らが意見を交わし、住民や学生約60人が聞き入った。

吉田社長のほか、地元のイチゴ農園「マルチ園」の大久保尚勇代表(45)、町地域活性化協会職員の大友和紀さん(44)、同大1年の松田和希さん(19)がパネリストとなり、大学や若者との地域の関わり方について話し合った。

吉田社長は「補助金などに頼るのでなく、永続性のある活動としてビジネスを展開する必要がある」と指摘し「過疎地を再生する学び場として、町に世界中の学生を受け入れる体制を作ってはどうか」と提案した。

祖母がミカンを生産している松田さんは「会員制交流サイト（SNS）で町の魅力を発信すれば、若者に伝えることができるのでは」と話した。

四国大は昨年11月、活性化センター内にSOを開所し、学生が観光の企画などに取り組んでいる。（松村万由子）

勝浦町と大学の関わり方について話すパネリストら＝勝浦町生名の地域活性化センター「レヴィタかつうら」

平成30年3月5日付け徳島新聞朝刊

四国大生がPR動画

25日勝浦で「さかもと坂道マラソン」

四国大メディア情報学科の学生22人が、25日に勝浦町坂本で開かれる「さかもと坂道マラソン」のPR動画を制作する。当日の様子のほか、起伏に富んだ坂本地区の風景なども撮影し、来年1月末の完成を目指す。

起伏に富む風景など撮影　1月末の完成目指す

学生はマラソン実行委の案内で、スタート地点や給水場所など事前にコースを散策。坂道から見下ろしたミカン畑や勝浦川などを、4Kカメラやスマートフォンで撮影した。

2～3人ずつ6班に分かれ、それぞれ10分程度の動画を作る。大会当日の映像やインタビューも盛り込む。

動画制作は、メディア情報学科の山本耕司教授が担当する「メディアデザインプロジェクト演習」の一環。インタビュー担当班の3年大西きやかさん(21)は「最終的にどんな動画になるのか楽しみ。地域の魅力が伝わるものにしたい」と話している。（高田麻衣）

実行委メンバー（右から2番目）からコースの説明を受ける学生＝勝浦町三渓

平成30年11月9日付け徳島新聞朝刊

ひな飾り　四国大彩る

勝浦・ビッグひな祭りPR

徳島市応神町古川の四国大に、色鮮やかなひな人形がお目見えした。勝浦町で2月18日から始まる「ビッグひな祭り」（4月8日まで）を学生にPRしようと、主催するNPO法人・阿波勝浦井戸端塾が設置した。

構内の中央棟1階ロビーの一角に、華やかな7段飾りの15体が展示されている。ロビーを行き交う学生が足を止めて写真を撮るなどして、一足早いひな飾りを楽しんでいる。ビッグひな祭りのPRポスターや、飾り付けボランティアを募集するパネルも掲示している。

同大と勝浦町などが昨年7月、地域活性化に関する連携協定を結んだ縁で、井戸端塾が初めて企画した。

3月2日まで飾り、平日午前9時～午後5時は一般でも見学できる。問い合わせは四国大社会連携推進課（電088(665)9953）。（千里達彦）

【紙面編集】山下直樹

華やかなひな飾りを鑑賞する学生＝徳島市応神町の四国大中央棟1階ロビー

平成30年1月28日付け徳島新聞朝刊

5　活動報告（Ⅳ　全体）

③　学内外への周知活動

- 地域活性化リーフレットの配布
- 学内フォーラムの開催
- パネル展示の実施

四国大学 大学COC事業における社会貢献
四国大学 大学COC事業では、地域連携・社会貢献拠点として、以下の取り組みを掲げています。
①徳島県産の食品加工、栄養食品開発・販売支援事業
②「地域がキャンパス」推進事業
③学校教育等支援事業
④美馬市観光交流センター事業
⑤学びのデジタルコンテンツ作成事業
⑥四国大学オープンカレッジ（SUDAchi（すだち）講座）
地域志向型教育研究としての社会貢献
地域志向型教育研究としては上記の①②③④に取り組んでいます。また
平成の連続とともに、上記以外の社会貢献策にも取り組み始めており、成果を
地域に還元するとともにその中で地域に貢献できる人材育成を進めています。
1.徳島県産の食品加工、栄養食品開発・販売支援事業
食用菊の機能性成分（生活科学部）
阿波みかん発祥の地・勝浦町で学ぶ農家の課題解決（生活科学部）
持続可能な発展のための地域MICE誘致（生活科学部）
地域の企業・経済団体と協力した電子商取引（経営情報学部）
2.「地域がキャンパス」推進事業
寺院文化財の活用（文学部）
学生の書道の力による地域活性化（文学部）
3.学校教育等支援事業
就学前児童への英語読み聞かせ（文学部）
舞台表現をベースとした地域活性化人材育成（生活科学部）
世界の民俗スポーツ体験（生活科学部）
4.美馬市観光交流センター事業
美馬市観光交流センター事業（生活科学部）
地域貢献型人材育成のための体験型カリキュラム開発（生活科学部）
藍染め・美濃など伝統文化継承事業（生活科学部）
学生の書道の力を地域活性化に活用する研究（文学部）
SUDAchiプロジェクトとは？
SUDAchi = Shikoku University Dream Achievement：四国大学事業賛
全学的な推進組織の体制を整備し、地域課題の解決に向けたカリキュラムの
充実を図り、特色ある"地域貢献型人材"を育成します。
大学COC（Center Of Community）事業とは？
大学と地域社会が連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献
を進める「地域のための大学」を支援することで、地域コミュニティの中核的存
在として大学づくりを目指すものです。
先進的地域貢献大学を目指して
SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学
地域教育・連携センター [SUDAchi推進室]
〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1
Tel.088-665-9953 Fax.088-665-9983
E-mail.sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp
2016年12月発行
SUDAchi Project NEWS Letter
地(知)の拠点
平成26年度 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」
【事業期間：平成26年度～平成30年度（5年間）】
SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学
SUDAchi Project NEWS Letter
No.5
2016.12
地域志向型教育研究
活動報告（2016.1-2016.9）

地域志向型教育研究
活動報告（2016.1-2016.9）
平成26年度の10件、平成27年度の11件に続き、平成28年度も「地域志向型教育研究」として地域活性化と地域課題解決に向けたプロジェクト10件を採択し、地域貢献型人材の育成に向けて、学生・教職員が一体となって学内外で活動しています。本号では平成28年1月から9月に行なわれた5件のプロジェクトをご紹介します。
徳島の食文化に関する研究
―次世代に伝え継ぐ徳島の家庭料理―
「世界の民族スポーツを体験しよう！
―地域貢献プロジェクトの企画運営を通じた人材育成―」
学生の書道の技術・表現力を生かす地域貢献
精神障がい者との協働による
課題解決教育プログラムの開発
全学共通教育科目での地域教育的要素の
導入による学習効果の向上に関する試行

文部科学省 地(知)の拠点 平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」【事業期間 ： 平成26年度～平成30年度(5年間)】 SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学

SUDAchi Project NEWS Letter

No.6 2017.3

全学共通・地域教育センター
(通称：SUDAchi館の竣工・移転)

地域志向型教育研究
活動報告(2016.4-2017.3)

1

平成29年3月21日発行

1 全学共通・地域教育センター(通称：SUDAchi館の竣工・移転)

(1) 平成29年3月17日(金) SUDAchi館竣工式挙行

地域教育に関する教育の推進ならびに地域貢献型人材の育成及び全学共通教育の充実を図るため、旧2号館を「全学共通・地域教育センター(通称：SUDAchi館)」として改築し、竣工式を行い、オープンした。

(2) 平成29年度から「四国大学地域教育プログラム」を開始

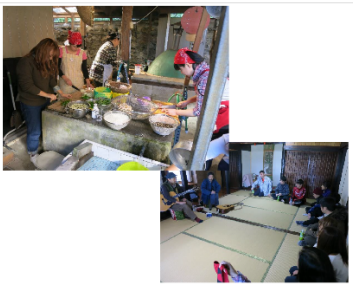
これからの地域社会で必要な、教育体制を体系化した、「四国大学地域教育プログラム」を平成29年4月から開始する。
同プログラムは、「全学共通科目」、「自由科目」、「専門科目」及び「地域研究」で構成され、それぞれの内容がつながりをもって新しい地域教育を目指すことを目的としている。

2

2 メディアに取り上げられた大学COC事業(西部地区)

(平成28年9月30日(金)・平成29年3月17日(金)付け、徳島新聞朝刊)に関連記事掲載

「にし阿波地域連携ビジネス創出支援事業」山里の地域資源を用いた新商品プロジェクト



3月3日(金)、新商品プロジェクトの成果報告をつるぎ町の道の駅「貞光・ゆうゆう館」で開催。11月に学生たちがつるぎ町で郷土料理作りやそば米加工を体験し、その体験を通してそば米を販売するためのパッケージのデザインや雑穀を使ったお菓子のレシピーを考案。成果報告会で学生が地域住民の方にプレゼンテーションを行った。

(記事・写真とも実際の新聞記事から転用したものではありません。)

3

(平成28年12月25日(日)付け、徳島新聞朝刊)に関連記事掲載

デリバリー・サンタクロース MIMA

12月24日のクリスマスイブ、学内ポータルでの募集で集まった学生ボランティア14人が地域のボランティアグループの人達と一緒にサンタクロースとトナカイに扮して、美馬市内の家庭を訪問。事前に家庭から預かったプレゼントを子どもたちに直接手渡した。

(記事・写真とも実際の新聞記事から転用したものではありません。)

4

(平成29年2月20日(月)付け、徳島新聞朝刊)に関連記事掲載

「ふるさと農山漁村応援事業」藍染のれんの制作

生活科学部生活科学科4年生が卒業制作で手掛けた藍染の暖簾を美馬市脇町大滝山周辺の3施設(「交流促進体験施設 美村が丘」、「大谷 大滝山麓食堂」、「広棚 花の里茶屋」)に提供し、地域活性化のためのワークショップに学生が参加、地域住民との交流を通して実現した。

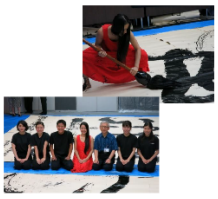
(記事・写真とも実際の新聞記事から転用したものではありません。)

5

3 メディアに取り上げられた大学COC事業(南部地区)

(平成28年8月4日(木)付け、徳島新聞朝刊)に関連記事掲載

「巨大な書道作品 四国大生制作」として



「巨大な書道作品四国大生制作」として文学部書道文学科の2年生5人と書家の川尾朋子特認教授が、美波町日和佐浦の日和佐八幡神社の秋祭りを題材にした巨大(横5m 縦6m)な書道作品を完成させた。作品は徳島阿波おどり空港の到着ロビーに2週間展示された。

(記事・写真とも実際の新聞記事から転用したものではありません。)

6

(平成28年8月11日(木)付け、徳島新聞朝刊)に関連記事掲載

「県南地域づくりキャンパス事業」旧回船問屋・谷屋調査を報告

文学部の学生17人が海部郡美波町の旧回船問屋・谷屋の絵画や調度品などについて調査し、谷屋が大きな財力を誇っていたことなどの報告を行った。なお報告会は、建物の構造や耐震・保存方法を調査している神奈川大学と共同で開催した。また、「地域文化財遺産の掘り起こしと地域活性化」と題し、須藤准教授の講演も行われた。

(記事・写真とも実際の新聞記事から転用したものではありません。)

7

(平成28年10月9日(日)付け、徳島新聞朝刊)に関連記事掲載

「県南地域づくりキャンパス事業」新野地区食文化調査

新野地区食文化調査
生活科学部管理栄養士養成課程1年生39人が、阿南市新野町の新野公民館で、町特産のタケノコを使った新しい料理を考案するため地域住民の方から聞き取り調査を行った。あわせて学生からたけのこを使った創作料理の提案も行った。

(記事・写真とも実際の新聞記事から転用したものではありません。)

8

4 大学COC事業中間評価結果概要

(1)「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
平成28年度評価について

- 平成28年9月29日(木)文部科学省中間評価 ヒアリング
- 平成29年2月14日(火)日本学術振興機構から公表
  https://www.jsps.go.jp/j-coc/h28_hyoka_kekka.html

(2) 大学COC事業外部評価結果

- 平成28年11月28日(月) 大学COC事業外部評価委員会開催
- 平成29年 1月19日(木) 外部評価結果報告

大学COC (Center of Community) 事業とは

大学と地域社会が連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める「地域のための大学」を支援することで、地域コミュニティの中核的存在として大学づくりを目指すものです。

今後のスケジュール(予定)

平成29年度

- 新あわ学研究所 始動
- 新設5科目開講 「地域未来探求」「地域創生入門」「地域貢献・ボランティア活動Ⅰ」「地域貢献・ボランティア活動Ⅱ」「地域企業等研究活動」
- 第6回・第7回 地域活性化フォーラム
- 第1回 あわ検定実施

平成30年度

- 外部評価委員会㊀による最終評価実施
- 第2回 COCシンポジウム
- 第5回 地域活性化フォーラム
- 第2回 あわ検定実施

地域志向型教育研究、SUDAchi(すだち)講座、地域活性化フォーラムは毎年実施予定です。
㊀外部評価委員会：四国大学大学COC事業外部評価委員会

SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学

地域教育・連携センター【SUDAchi推進室】
〒771-1192 徳島県徳島市北井字佐古123-1
Tel. 088-665-9953 Fax. 088-665-9983
E-mail. sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp

9

第6回 四国大学地域活性化フォーラム『大学的徳島ガイド』刊行・新あわ学研究所設立記念講演会 活動報告(2017.7.1)

四国大学長、SUDAchi推進室長
松重　和美

SUDAchi Project－文部科学省支援 四国大学地（知）の拠点整備事業“とくしまで学び育てる地域貢献型人材育成事業”－も平成26年秋の開始以来4年目を迎えました。本事業での３つの主要カテゴリー、教育改革、研究展開、そして地域貢献の各分野でそれぞれ顕著な進展があり、その活動・実績に対し、地域の方々からも“先進的地域貢献型大学：四国大学”としての認知度が広まり、連携・協働活動の推進機運も高まってきています。（図1、2参照）教育関係では、地域教育の体系化・関連科目の新設、研究分野では多数の地域共同研究の実施と「新あわ学研究所」の設立、そして地域貢献活動ではその多彩・数多くの活動内容はマスコミでも取り上げられ、さらにCOC＋事業の一環として産業支援・起業家育成教育にも取り組んでいます。

今回の第６回四国大学地域活性化フォーラムでは、まず「大学的徳島ガイド」の刊行の経緯と意義の説明をしました。地元徳島のことを本学生学生・地域住民の方々とともに県外の方々に、わかりやすい、それでいて面白のある（学問的）内容を記した（通常の観光本とは異なる）解説書の作成を企画しました。丁度、こうした趣旨で“大学的○○ガイド”シリーズを発行されていた京都の出版社昭和堂さんとの構想相談、出版交渉を経て、学内関係者30名による執筆、そして徳島県知事飯泉嘉門氏の帯が付与され、７月１日の出版記念会を迎えることができた次第です。現地を歩いてみたい、徳島にもこういう興味ある場所、歴史、事柄があったのか、まさに宝発掘の楽しみが詰まった本になったと出版に関わったSUDAchi推進室のメンバーは喜んでいます。（図３）この本は、来年２月実施予定の「あわ検定」の主要な参考書にもなります。（図４）

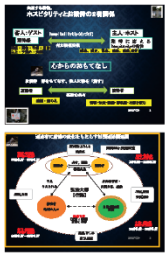
四国大学では、新たな視点から地元徳島を取り上げ、その特徴、潜在的な宝を取り上げ、学内外の人々に関心を持っていただけるような内容を集積した“新あわ学”の構築を検討してきました。その研究推進の母体となるのが、本年６月１日設立の「新あわ学研究所」で、そのオフィスを全学共通・地域教育センター（愛称：SUDAchi 館）に設け、活動が始まります。（図５）徳島の伝統産業“あわ藍”を染色のみでなく、科学的分析を行い新たな機能解明・製品の開発に取り組むなど、これまでなかった大学横断的・融合的な研究展開が期待されます。

阿波の城郭を歩く

文学部日本文学科　教授　須藤 茂樹

一般的な城のイメージは、水を満えた堀、石垣、天守閣だろう。これは江戸時代の城郭で、安土城に端緒があります。中世の城は、土塁、空堀、簡素で構成されます。「城」という字は土で成るであり、中世の「土の城」から近世の「石の城」へと発展を遂げるのです。その過渡期となる戦国時代、阿波三好氏の城は畿内と阿波では違った様相を呈します。畿内において、天下の覇権をめぐって活躍した三好長慶が築いた飯盛山城（大阪府大東市・四条畷市）は、巨大な想切や一部石垣を有する大規模な山城でした。

一方阿波の城郭は小規模なものが多く、阿波は比較的安定していたことが要因のひとつと思われます。降旗貿氏によって築城された一宮城は、大規模な山城で阿波を代表する城郭です。登り口から諸曲輪、瓶切、竪堀、切岸など様々な防御施設を辿りながら本丸までの道程を紹介し、戦国阿波の城郭の魅力を論じました。



ホスピタリティーからみたお接待

看護学部看護学科　教授　高橋 順子

ホスピタリティはホストがゲストに行う「心からのおもてなし」において、喜びや感動の感情が相互に自然に発生し相乗効果を生みます。通訳者の様子を観察し支援するお接待は、長い歴史の中で育くまれた文化であり互いに「感謝の気持ち」を共有し双方が満足感を味わいます。これらに共通する特徴は相手への思いやりです。

四国遍路は、1200年の歴史を持つ遍路文化と地域に根付き、四国4県全体が一体となった接待文化を生み出しています。発心の道場では、慣れない遍路を優しく見守り、修行の道場では困難に打ち勝つ励ましを行い、菩提の道場では独り立ちした遍路を受け入れ応援、涅槃の道場では結願に向かう遍路旅の整理と新しい世界へ踏み出す勇気を支援します。

徳島の麺文化

短期大学部食物栄養専攻　教授　植田 和美

日本における麺の源流は手延べそうめんであり、奈良時代に中国から伝来した唐果物の一つである索餅が起源とされます。徳島県美馬郡つるぎ町半田（旧半田町）では、江戸時代にそうめん発祥の地である奈良県の三輪から製麺技術が伝わり、手延べそうめんが作られるようになりました。この「半田手延べそうめん」に「側所のたらいうどん」「祖谷そば」「徳島ラーメン」「鳴ちゅる（鳴門うどん）」を加えて徳島の五大麺と称されます。徳島は、他の地域に例を見ないほど多様な麺文化が共生している地域です。

「大学的徳島ガイド」において、徳島の五大麺の起源や特徴について－徳島の多様なめん文化－として記しました。徳島の多様な麺文化を楽しんでいただければ幸いです。

SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学
地域教育・連携センター　SUDAchi推進室
〒771-1192 徳島県吉野川市山川町学校123-1
TEL (088-665-6063) FAX (088-665-6060)
E-mail　sudachi.suishin@shikoku-u.ac.jp

大学COC(Center OF Community)事業とは?
文部科学省事業の一環として大学と地域社会が共同して、地域の「未来」を創造する「知の拠点」構想。地域の人材育成を通じ地域社会の人材育成に貢献するとともに、地域「まち」ディの中核拠点として大学づくりを目指すものです。

文部科学省 地(知)の拠点　平成26年度 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」【事業期間：平成26年度～平成30年度(5年間)】　SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学

SUDAchi Project NEWS Letter

No.8 2018.3

とくしまを学び、協働で創生する。四国大学大学COC事業SUDAchiプロジェクト！

勝浦地区スーパーサテライトオフィス開所式 (2017.11.24)

開所にあたって

勝浦町地域おこし協力隊、四国大学学部別連携コーディネーター　平瀬 彰人

平成29年11月24日(金)、勝浦町地域活性化センター「レヴィタかつうら」において、勝浦町の協力のもと「四国大学勝浦地区スーパーサテライトオフィス（SSO）」の開所式が挙行されました。開所された勝浦地区SSOを活動拠点に、今後、学生の柔軟な発想に基づくフィールドワーク、地域貢献活動や教員の研究活動を通して、勝浦町のさまざまな課題の解決、地域の再生・活性化に繋がっていくことが期待されます。

勝浦地区スーパーサテライトオフィス開所式を実施　(2017.11.24)
新あわ学研究所特別講演会を開催　(2017.12.16)
第1回あわ検定及び記念講演会を実施　(2018. 2.25)
四国大学地域貢献活動等優秀賞表彰式を実施　(2018. 3.12)

SUDAchiプロジェクトとは？
「SUDAchi」＝Shikoku University Dream Achievement 四国大学夢実現 全学的な地域連携の教育活動を通じ、地域課題の解決に対応できるカリキュラムの充実を図り、地域あわ（地域貢献型人材）を育成します。

先進的地域貢献大学を目指して

西部地区スーパーサテライトオフィスの移転について

経営・企画部　部長　石田　義人

四国大学は、平成26年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」の採択を受け、平成26年11月10日に美馬市脇町にある市民サービスセンター「川島町庁舎」内に美馬市から協力を得て西部地区スーパーサテライトオフィス（SSO）を開設しました。四国大学地域となるSSO開設以来、学生・教員と地域住民等とのれんぜん共同活動の拠点として多くの活動を行ってきました。この度、平成30年3月に「市民サービスセンター」が新しく竣工される「美馬西地域交流センター」へ移転することに伴い、SSOも移転させていただくことになりました。地域連携活動のさらなる拠点としてスタートさせます。

SUDAchi Event NEWS

平成30年度

- 第8回　地域活性化フォーラム　12月(予定)
- 外部評価委員会*による最終評価実施　12月(予定)
- 第2回　あわ検定実施　2月(予定)

*地域連携活動や地域人材育成のCOC事業等の評価委員会

SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学
地域教育・連携センター　SUDAchi推進室
〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川字古川123-1
TEL 088-655-9963　FAX 088-655-9983
E-mail sudachi@shikoku.ac.jp

大学COC(Center OF Community)事業とは？
文部科学省事業の事業として大学と地域社会が協力し、全学的に地域において教育・研究・社会貢献を通じた地域のための人材を育成することで、地域コミュニティの中核的存在として大学づくりを目指すものです。

新あわ学研究所特別講演会 活動報告 (2017.12.16)

地域の魅力を発掘・発信する「新あわ学研究所」の目指すもの

四国大学長、SUDAchi推進委員　松重　和美

新あわ学研究所は、新たな拠点に立って徳島、阿波の文化を創造するため全学の研究分野を融合し、調査・研究活動を行うことを目的に、平成29年6月1日に設立されました。特に徳島の伝統文化・産業である阿波藍の科学的分析等の研究活動を主体に徳島の豊かな自然や歴史、伝統文化や伝説・芸者文化などを含む新時代の徳島の文化を創造し、標準的な情報発信活動を行うことにより、地域の活性化に貢献することを目指しています。さらに、大学の研究ブランディングの構築を図るため、藍に関する産学公連携研究事業、地域自治体との教育・研究連携活動など、学外を含む各種研究プロジェクトを積極的に推進しており、これまでなかった大学横断的・融合的な研究展開が期待されます。

阿波食用藍の可能性 ―生活習慣病予防の観点から―

四国大学生活科学部管理栄養士養成課程　近藤　真紀

藍は、染料や生薬として古くから利用されていました。染料と薬効が結びついたものには、藍以外にもいくつかあります。しかし、その薬効について科学的根拠を示す論文はありません。最近の研究では、藍の機能性として、抗酸化、抗炎症、抗ピロリ菌、抗ガン作用を示すことが報告されておりますが、いずれも試験管内での結果です。私どもは、藍の機能性を確認するため、実験用動物を用いて生体内での影響を観察しました。その結果、腹腔内脂肪重量の減少や、脂肪肝の改善、血清脂質、グルコースの減少に藍の成分が関わっていることを見出しました。

四国遍路と世界遺産について

四国大学大学部日本文学科　真鍋　俊照

四国四県をめぐる弘法大師空海の遍路は、今日では日本文化遺産に認定されています。円避形の1,400キロにおよぶ世界一の巡礼道です。また、徳島県知事はじめ四県の台所感覚で10年前から国の審議を待っています。さらに、各県で国宝と同等の史跡の指定を行っています。88ヶ所の寺院を中心に多くの課題を世界遺産推進協議会の構成員として、四国大学は懸命の努力をつづけています。遍路者数も最近では外国人も多く加わり20万人と増加傾向にあります。

第1回あわ検定及び記念講演会を実施 (2018.2.25)

「第1回あわ検定及び記念講演会」を実施して

四国大学地域連携コアコーディネーター　峪口　有香子

平成30年2月25日（日）に、四国大学共通講義棟R館において「第1回あわ検定」及び記念講演会を実施しました。「第1回あわ検定」では、175名の申し込みがあり、150名の方が受検されました。さらに、記念講演会では、98名の来場者がございました。あわ検定実行委員会としまして、検定実施準備、検定当日の実施等と、不慣れなことで不行き届きの点が多々ありましたこと、ご容赦いただければ幸いです。平成31年度実施予定である、「第2回あわ検定」に向けて、さらに実施内容の改善を進め、広報活動を積極的に進めてまいります。今後ともさらなるご支援の程よろしくお願い致します。

平成29年度　四国大学地域貢献活動等優秀賞　表彰式について (2018.3.12)

本学では、地域教育を体系的に整え、平成29年度から新たな「四国大学地域教育プログラム」を実施・スタートさせました。プログラムの一つとして、学生自らが地域への貢献活動やボランティア活動などに積極的に参加することを図り、それらを評価し、特に優れた活動を表彰する制度を設けました。平成29年度は 6 名の学生を地域貢献活動等優秀賞に決定し、平成30年3月13日に、地域貢献活動等優秀賞表彰式を行いました。

<受賞者一覧>

経営情報学部メディア情報学科	3年	中川　通登氏
生活科学部児童学科	3年	高島　佐紀氏
生活科学部児童学科	3年	田村　友舞氏
生活科学部児童学科	3年	三輪里里紗氏
生活科学部児童学科	4年	早川　大河氏
生活科学部児童学科	4年	吉田　健悟氏

文部科学省 地(知)の拠点　平成26年度 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」【事業期間：平成26年度～平成30年度(5年間)】　SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学

SUDAchi Project NEWS Letter No.9 2018.9

とくしまを学び、協働で創生する。
四国大学大学COC事業SUDAchiプロジェクト！

新あわ学コースについて

「新あわ学コース」開講にあたって

四国大学学長　松重　和美

まなびーあ徳島「新あわ学コース」は、徳島県(総合大学校)と四国大学が連携して開設いたしました。

県人であっても、自分が生まれ育った徳島について充分に理解されていないのが現状です。

そこで、徳島のことについて、体系的に学び地域に愛着と誇りを持ってもらうことを目的として7分野からなる「新あわ学コース」を開講いたしました。

この機会に多くの皆様に受講していただき、ご自身の徳島に関する知識と理解を深め、その魅力に「あわ検定」を受検して、楽しみながら徳島について学んでいただければと思っています。

新あわ学コースについて
阿波藍の研究成果報告
シコダイ★アソビvol.6を実施 (2018.5.4～5.6)
WISE PLACEとくしまを実施

SUDAchiプロジェクトとは？
「SUDAchi －Shikoku University Driven Achievement 四国人事業」は、全学的な推進組織の体制を整備し、地域社会の解決に向けたカリキュラムの充実を図り、時代を担える"地域貢献型人材"を育成します。

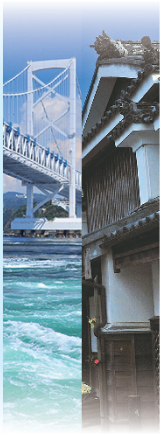
あわ検定 第2回

平成31年
2月24日(日)
13:00～14:00(受付12:00～)

■ 会　場／四国大学 共通講義棟
(徳島市応神町古川字戎子野123－1)
■ 参加費／無料　■ 申込み／事前申込制
■ 定　員／400名(先着順)

※受検申込書は9月頃から配布いたします。多数のご参加をお待ちしております。

主　催／
四国大学 SUDAchi推進室「あわ検定」実行委員会



受検に関する詳細は、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先
〒771-1192　徳島県徳島市応神町古川字戎子野 123-1
四国大学 SUDAchi推進室「あわ検定」実行委員会
E-Mail：sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp　TEL：088-665-9953

SUDAchi Event NEWS

平成30年度
- 私立大学研究ブランディング事業
- 第8回　地域活性化フォーラム　12月(予定)
- 外部評価委員会*1による最終評価の実施　12月(予定)
- 第2回　あわ検定の実施　2月24日(日)

*1外部評価委員会：四国人事業COC事業外部評価委員会

SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学
地域教育・連携センター　SUDAchi推進室
〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1
tel 088-665-9953　FAX088-665-9953
E-mail sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp

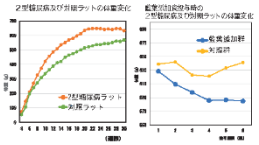
大学COC(Center Of Community)事業とは？
文部科学省公募の事業として大学と地域社会が協力し、全学的に地域に向けた教育・研究・社会貢献を進める「地域のための大学」を公募することで、地域コミュニティの中核的存在として大学づくりを目指すものです。

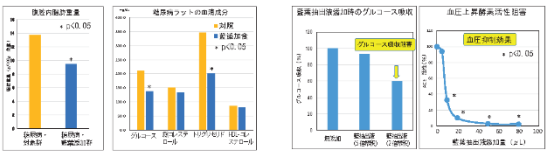
阿波藍の研究成果報告

阿波食用藍の機能性について

生活科学部管理栄養士養成課程　教授　近藤　真紀

平成26年度より、阿波食用藍の機能性を解明する目的で、実験用動物(ラット)を用いた研究を行っています。2型糖尿病モデルラットに、藍葉添加食を6週間投与すると、インスリン分泌の高まり、血糖値の低下、そして糖尿病が改善することが明らかになりました。また藍葉抽出液は、血管からのグルコースの吸収を阻害することや、血圧上昇に関わる酵素(ACE:アンギオテンシン変換酵素)を抑制することも見出しました。このように食用藍は、生活習慣病予防には有効な食材と考えられ、更に研究を進めています。





シコダイ★アソビvol.6を実施(2018.5.4-5.6)

地域教育・連携センター　准教授　宮井　浩志

徳島県などが主催するマチ★アソビvol.20が5月4日(祝金)～6日(日)に開催され、本学は「シコダイ★アソビvol.6」としてポッポ街商店街にてブース出展を行いました。ブース内では、生活科学科デザインコースは液晶タブレットや3Dプリンタを使った体験を、書道文化学科は来場者からのリクエストに応えて即興で揮毫する書道実演を行い、また、コスプレ部は本学交流プラザにてコスプレ撮影ブースの運営を行いました。

また、ポッポ街商店街の特別会場では、生活科学科デザインコースの主催で「第4回デジ絵コン」の表彰式が行われ、来場者は、プラザでのコスプレ着換え利用者も含め過去最高の3,447人でした。

▲第4回デジ絵コン表彰式

▲コスプレ部

▲デザインコース

▲書道実演

岡山県倉敷市豪雨災害ボランティア活動に参加して(2018.8.8)

社会連携推進課

本学の学生ボランティア活動支援室が中心となり、平成30年8月8日、学生や教職員35人が、岡山倉敷市豪雨災害ボランティアに参加しました。西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町を訪れ、復興支援のボランティアに取り組みました。バスで徳島市を出発し、午前10時から約4時間、3グループに分かれて真備町下二万地区の民家の清掃作業を行いました。学生らは傷んだ壁や床を剥がして屋外に出したり、堆積した土砂をスコップで取り除いたりしました。参加した学生からは、「自然災害の恐ろしさをあらためて痛感すると同時に、こうした大災害に対して、一人ひとりがどのようにして命を守り、そして市民がどのようにして復興に立ち向かっていくべきかについて深く考えさせられた」という感想が聞かれました。

WISE PLACEとくしま地域連携・協働ワークショップを実施して(2018.9.15)

一般社団法人徳島青年会議所　新時代のまちを共につくる委員会　委員長　岡田　圭祐

平成30年6月から3ヶ月間、四国大学をはじめ市内3大学の施設を利用し、大学生が地域・NPO・企業など様々な主体と、協働・連携してワークショップを企画・実施しました。週に1度のミーティングという限られた時間の中で、多様な参加者から合意形成を得て進めることは容易ではなく、大学生のみならず周りの大人にとっても良い経験となりました。大学が今後も地域連携の中心として開かれ、地域の活性化へ繋がることを期待しております。

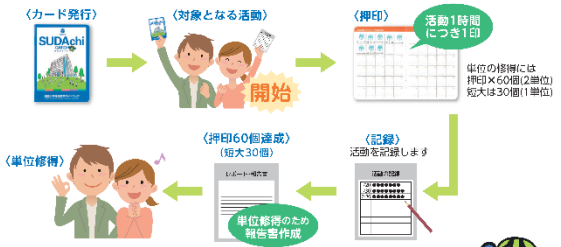
先進的地域貢献大学を目指して

●四国大学 地域教育プログラムの流れ

地域教育プログラムは、地域教育分野の「全学共通科目」、学生の自主的活動を基にした「自由科目」、地域志向型の「専門科目」及び新「あわ学」への取組みなどの「地域研究」で構成されています。

自由科目「地域貢献・ボランティア活動Ⅰ」「地域貢献・ボランティア活動Ⅱ」「地域企業等研究活動」の3科目は、学内での講義や演習による授業ではなく、学生自ら が、学内外での社会に対する貢献活動、ボランティア活動や自らのキャリア形成、就職活動の準備に役立つ地域の企業等を研究する活動を行って、定められた時間数を積み上げることによって授業科目の学修として単位を認定するものです。この科目は、学生を問わず全学生が対象です。

「SUDAchi CARD」と単位認定の流れ



対象となる活動

●学部、学科、事業部単位で行っている活動●キャリアセンターがコーディネートして行っている活動
●学部、学科、有志の学生のサークル単位で行っている活動●全学学生のクラブ、サークル単位で行っている活動
●地域考古学・博物センターがコーディネートして行っている活動●デモンストレーション活動支援※がコーディネートして行っている活動
●学生の優れた取り組みに対する支援(学生支援GP)を受けて行っている活動●その他学生の自主的な活動

記に示す地域貢献活動、ボランティア活動はどれ、「地域教育関連科目」の単位認定につながります。
(平成30年度SUDAchi CARD発行入数940人(平成30年12月1日現在))

SUDAchi Event NEWS

平成31年度
- 私立大学研究ブランディング事業
- 第9回　地域活性化フォーラム
- 第3回　あわ検定実施

SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学
地域教育・連携センター　SUDAchi推進室
〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川字筋違123-1
TEL 088-665-9953　FAX088-665-9933
E-mail　sudachi@suishin.shikoku.ac.jp

大学COC(Center Of Community)事業とは？
文部科学省事業の一環として大学と地域社会が共に、地方創生・地域に密着した教育・研究・社会貢献を通じて、地域のための人材育成を進めるとともに、地域コミュニティの中心的存在として大学づくりを目指すものです。

文部科学省 地(知)の拠点　平成26年度 文部科学省「知(知)の拠点整備事業」【事業期間：平成26年度～平成30年度(5年間)】　SHIKOKU UNIVERSITY 四国大学

SUDAchi Project NEWS Letter No.10 2019.2

とくしまを学び、協働で創生する。四国大学COC事業SUDAchiプロジェクト！

四国大学大学COC事業今後の展開について 自らキャリア形成する力を身につけよう！

SUDAchiプロジェクトとは？
SUDAchi =Shikoku University Dream Achievement(四国大学で夢実現)
地域の課題を解決する人材を育てる。地域社会の人材ニーズを踏まえ、地域の「知」を活かし、地域から「地域貢献人材」を育成します。

大学COC事業今後の展開について

学長　松重　和美

四国大学COC事業「とくしまで学び育てる地域貢献型人材育成事業」では、平成26年度より本学が位置する徳島県の豊かな自然、伝統文化や産業、そして人間味ある人々の暮らしを座学だけではなく、学生が実際に地域へ入ることで、地域の実情を体得し、課題とともに創る空を見出し、自治体や地域住民と協働で課題解決に向けた取組みを行ってきました。これらを推進する核として「四国大学地域教育・連携センター(愛称：SUDAchi 推進室)」を開設するとともに、県内3カ所(西部・南部・勝浦)に、スーパーサテライトオフィス(SSO)を開設し、地域に関する教育・研究の充実と自治体・企業や地元住民等との共同研究や課題解決策を模索することで、地域の振興・活性化を格段に促進し、また「新あわ学研究所」や「あわ検定」を創設するなど徳島県の魅力を県内外に発信してきました。

平成30年度で文部科学省からの助成期間が終了し、一区切りを迎えますが、この事業の根幹にある「現場で学び、将来地域に貢献する人財を育成」の理念は、四国大学の地域教育の核として位置づけ、今後とも組織の構築化・高機能化や外部資金の獲得を計りつつ大学全体の取り組みとして、また地元自治体等とも一層密に連携して徳島の地域創生や地域貢献人材の育成に取り組んでいます。

自らキャリア形成する力を身につけよう！

イオンスタイル徳島にてエシカルメニュー試食会を行って

生活科学部 生活科学科 3年　坂東　凌

2017年からイオンスタイル徳島にて「地産地消の徳島」や「食から徳島を元気に」をテーマとして試食会を開催してきました。2017年は徳島の認知度の低い特産野菜を、2018年は「エシカル」をテーマとしA3C認証などエシカル商品を使ったメニューの提案と試食会を行っています。エシカルメニュー試食会の調査では県内のエシカル認知度は29%と全国平均(約10%)よりも高いとはいえまだまだ浸透していないのが現状です。徳島県消費者庁連絡に伝い県内から全国に向けて「エシカル消費」を皆様に知っていただきたいという思いから始めました。身近な「食」からアプローチを行うことで、皆様に「エシカル消費」の重要性が伝わればと思います。

WISE PLACEとくしまに参加して

看護学部 看護学科 2年　西木　琴音

私たちのグループは、地域の活性化をテーマに、交流を深めるための「楽しうどん」の開催を企画しました。地域の人や普段あまり関わらない年代の方と意見を交えたり、就労経験をしたりする中で視野が大きく広がり、様々な立場で物事を考える柔軟性を身につけることができました。また、主体的に行動することが自身の考えより強く影響すると学びました。実際に企画から関わり、大々的にイベントを立ち上げていく体験は中々できることではなく、この企画に巡り合えて自己成長ができたと実感しています。

第1回観光アイデアコンテストに参加して

文学部 日本文学科 1年　安丸うらら

観光アイデアコンテストとは、徳島県内の大学生がチームを組み、観光地へフィールドワークに行き、観光アイデアを創っていくプログラムです。

私たちのチームは高知県や桂浜へフィールドワークに行き、外国人観光客に高知県の魅力や訪れた理由を質問し、調査をしました。今回のフィールドワークを通して、高知県ならではの良さを知ったことや、外国人観光客の視点から高知県を見ることが大切だと学びました。

今後は、フィールドワークでの発見を基にして、高知県の魅力を活かしたアイデアを考えていきます。外国人観光客が興味を持ち、訪れてくれるような国内のアイデアを考えコンテストに挑みたいと思います。

デリバリーサンタクロースに参加して

生活科学部 生活科学科 4年　白川　諸

今年が卒業なので友人との思い出作りとして参加しました。

1日目はプレゼントの選択を担当しました。大人の方が持って来たプレゼントを家族ごとにまとめて、メッセージを書いてもらった物を回収していく作業でしたが、名簿を見ながら間違えないように慎重にやりました。2日目は各家庭に配る作業でしたが、ほとんどの子供達が喜んで受け取ってくれ、その際にプレゼントや手紙をもらい、心が温かくなりました。2日間という短い期間でしたが、貴重な経験がない年代の方とボランティアを通じて仲良くなれましたし、子供達が喜んでくれたことがとてもいい思い出になりました。ぜひ来年もたくさんの人に参加してほしいと思います。

安楽寺の調査に参加して

文学部 日本文学科 3年　山口　幸歩

私は博物館学芸員の資格取得を目指し、資格科目を受講していますが、就業で実際に資料に触れることはそうありませんし、今回安楽寺の調査に参加して、貴重な資料の数々に触れ合う機会などに触れ、先生や先輩方に教えていただきながら資料の価値を高めたり、学校の授業では学べない実践的なことを経験させていただきました。このような経験・方は自主的に動かなければ得られないものだと思いますので、これからも積極的に調査に参加し、経験を積んでいきたいと思います。

和傘制作に参加して

生活科学部 生活科学科 4年　西岡奈津美

卒業制作として美馬市にある和傘制作業団の方々のもとで、傘で染めた和傘を制作する機会を頂きました。講義の中で和傘の形のランプシェードを制作したことはありましたが、和傘を作ったことは一度もありません。和傘制作の方々からのリアルな和傘の現状を聞き、技術の後継者がいないことや和傘の将来が暗い未来の事ではないことを知りました。私がデザインして制作した和傘を見たときに、和傘を身近に感じて魅力や興味を持っていただくきっかけになればと思います。

社長のかばんもちに参加して

経営情報学部 経営情報学科 3年　知賀　好美

私は、社長のかばん持ちに参加して常に学び続けることの大切さを学びました。また、社長の参加する勉強会に同行させていただき、忙しい中でも積極的に学ぶ姿勢を大切にしている人が徳島県の中でもとてもたくさんいらっしゃることに気づくことができました。これからは、ただ講演や人の話を聞くだけでなく出来る限り自分の中で咀嚼を深められるように意識していこうと思いました。

チャレンジショップin東新町に参加して

看護学部 看護学科 4年　向井隆一郎

今回COC+のチャレンジショップに参加してみて、飲食店などの商品を開く大変さを学ぶことができました。特に、来客はとても大変でした。当初は、SNSなどの媒体を使って宣伝をすることなど考えていましたが、初めは集まらず苦労しましたしかし、出店の回数を重ねていくうちに、接客方法や お店の組し方などを学ぶ機会することによってお客さんの数も増えていきました。学生の内に出来たことは貴重な体験で、将来にも生かしたいです。

新あわ学コースに参加して

経営情報学部 経営情報学科 1年　林　久瑞実

私は、新あわ学コースの中でいくつかの講座を受講しました。特に印象的であったのは、「徳島病対策！徳島新しい健康法」という講座です。体験型の講座で、ジャッキーチェンにも教えたことのある危険探知犬から大麻学を教わり、初めての体験であったため新鮮な気持ちで楽しむことができました。新あわ学コースでは、徳島のことを様々な分野でより深く知ることができ、また、大学生のみならず地域の方も参加できるので、地域交流の場でもあると感じました。

美馬市「ミライズ」盛況での書道パフォーマンスについて

四国大学文学部 書道文化学科 3年
有志グループ「West Girls」代表　郡須　彩乃

「ミライズ」とは、2018年の春に美馬市に設立された、市民が集う施設です。その落成式の中で、私たちWest Girlsが書道パフォーマンスを披露することになりました。

2018年3月12日(土)に行われた本番の落成式では、約500名の関係者の皆さんの前でパフォーマンスをすることに緊から緊張していました。出番直前の控え室では、「ミライズに集う人々の個性が会わさって発展する場所であって欲しい」という願いを込めてパフォーマンスしよう、とメンバー全員で話し合いました。書き始めると、緊張の糸が切れが嘘のように、大きな仕事をやりきった気持ちと、私たちの思いが伝わった喜びで一杯になりました。私たちは高校の学生がほとんどです。全く知らなかった美馬市で地域貢献が成し遂げられた事は、これまでにない貴重な経験になりました。

とくしま学生ビジネスプラン道場に参加して

経営情報学部 経営情報学科 3年　元木　亨

COC+「とくしまビジネスプラン道場」に参加し、自分自身とても大きな成長を遂げることができたと実感しています。当初は、授業の一環で考えたプランでしたが、まさかの準グランプリという賞をいただき、しかも中では唯一現実的で、もう少しというところまで進んでいる状況です。また、この経験でたくさんの繋がりができ、本当にこのCOC+事業に参加できたことに感謝しております。

平成28年度第1回四国大学大学 COC 事業学内フォーラム

（平成28年9月5日（月） 10:00～11:30 共通講義棟 R101教室）

1 四国大学 COC 事業の今後の展望について（松重 和美 地域教育・連携センター長）

2 COC コア科目「えひめ学／愛媛学」の展開と教職員のかかわり

（阿部 光伸 先生 愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師）

平成28年度第2回四国大学大学 COC 事業学内フォーラム

（平成29年3月14日（火） 10:00～11:25 共通講義棟 R101教室）

1 四国大学における地域貢献事業の全体像について（松重 和美 学長）

2 四国大学の地域教育への取組みについて（佐藤 一郎 理事長）

3 平成28年度SSO活動実績報告について（徳山地域連携コーディネーター，久米地域連携コーディネーター）

4 平成28年度COC＋事業活動状況について（里見 和彦 創業支援クリエーター）

平成29年度第1回四国大学大学 COC 事業学内フォーラム

ー魅力ある「地域教育」の推進についてー

（平成29年9月11日（月） 10:00～11:25 共通講義棟 R101教室）

1 「地域教育」と「あわ検定」について（松重 和美 学長）

2 地域教育科目「地域創生入門」について

（全学共通教育センター 阿部 曜子 教授・短期大学部 加渡 いづみ 教授）

3 地域教育科目「地域未来探求」について

（生活科学部管理栄養士養成課程 高橋 啓子 教授・生活科学部生活科学科 西岡 かおり 准教授）

4 四国大学地域教育ガイドブック及びSUDAchiカードの活用について（社会連携推進課 玉置 千裕）

5 地域志向型研究実績報告 世界の民族スポーツを体験しよう！

ー地域貢献プロジェクトの企画運営を通じた人材育成ー（生活科学部児童学科 細谷 洋子 講師）

平成29年度第2回四国大学大学 COC 事業学内フォーラム

ーCOC 事業最終年度を迎えるにあたってー

（平成30年3月13日（火） 10:00～11:30 共通講義棟 R101教室）

1 先進的地域貢献大学：四国大学 ー COC・COC+から研究ブランディング事業への展開（松重 和美 学長）

2 地域貢献活動実施報告について

（経営情報学部メディア情報学科3年 中川 湧登・生活科学部児童学科3年 三栖 亜里紗）

3 平成29年度各地区SSO活動状況及び最終年度に向けて

（徳山地域連携コーディネーター・久米地域連携コーディネーター）

4 平成29年度COC＋事業活動状況及び今後の活動に向けて

（里見創業支援クリエーター・吉田創業支援クリエーター・経営情報学部経営情報学科2年 元木亨）

平成30年度第1回四国大学大学 COC 事業学内フォーラム

－先進的地域貢献大学：さらなる地域連携の展開－

（平成30年9月3日（月） 10：00～11：30 共通講義棟 R101教室）

1 先進的地域貢献大学の取組みと将来構想について（松重 和美 学長）

2 地域貢献活動実施報告について

（生活科学部児童学科4年 田村 友舞・生活科学部児童学科4年 高島 佐紀）

3 COC＋「チャレンジショップ IN 東新町」

（経営情報学部メディア情報学科4年 中川 湧登

経営情報学部経営情報学科2年 西 智徳

生活科学部管理栄養士養成課程3年 斎村 真由

生活科学部管理栄養士養成課程1年 粟飯原 みく

文学部書道文化学科4年 玉城 千博）

4 消費者庁移転に向けてと新規地域学科目「消費者市民社会」について

（教授 加渡 いづみ）

5 阿波食用藍の機能性について「2型糖尿病モデルラットへの影響」「藍種子投与の影響」

（生活科学部管理栄養士養成課程教授 近藤 真紀

生活科学部 管理栄養士養成課程助教 辻 博子

大学院人間生活科学研究科2年 本村 衛由

大学院人間生活科学研究科2年小谷 航

大学院人間生活科学研究科2年岡 実紗）

平成30年度第2回四国大学大学 COC 事業学内フォーラム

－地域とつながり共に学ぶ「地域貢献型人材育成事業」5年間の歩みと今後の展開－

（平成31年3月12日（月） 10：00～11：30 共通講義棟 R101教室）

1 「とくしまで学び育てる地域貢献型人材育成事業」成果報告（松重 和美 学長）

2 平成30年度各地区SSO活動状況及び今後の展開について

（徳山地域連携コーディネーター・松浦地域連携コーディネーター・平瀬特別連携コーディネーター）

3 平成30年度COC＋事業活動状況及び最終年度に向けて

（吉田創業支援クリエーター・経営情報学部経営情報学科3年 遠藤万琴

経営情報学部経営情報学科3年 元木亨）

パネル展示の実施

徳島県立総合教育センター マナビィセンター交流コーナー	平成28年5月16日(月)	～	平成28年6月13日(月)
四国大学中央棟(A館) 1階ロビー	平成29年1月4日(水)	～	平成29年1月20日(金)
四国大学大学会館(I館) 1階食堂	平成29年1月23日(月)	～	平成29年2月3日(金)
徳島県立南部総合県民局美波庁舎 1階エントランス掲示板	平成29年2月13日(月)	～	平成29年2月24日(金)
美馬市役所穴吹庁舎 2階本館と別館の渡り廊下	平成29年2月14日(火)	～	平成29年2月28日(火)
徳島県立総合教育センター マナビィセンター交流コーナー	平成29年5月1日(月)	～	平成29年5月9日(水)
徳島県立総合教育センター マナビィセンター交流コーナー	平成30年5月1日(火)	～	平成30年5月9日(水)
美馬市役所穴吹庁舎 2階本館と別館の渡り廊下	平成30年5月9日(水)	～	平成30年5月16日(水)
レヴィタかつうら 1Fエントランス付近に展示	平成30年5月16日(水)	～	平成30年5月25日(金)
勝浦町役場	平成30年5月25日(金)	～	平成30年7月6日(金)

勝浦町での展示風景

地域活性化フォーラムでの展示風景

B 館ロビーでの展示風景

美馬市役所穴吹庁舎での展示風景

5　活動報告（Ⅳ　全体）

④　実施体制等

- **各種委員会委員名簿**
- **大学COC事業実施体制**
- **各種委員会等開催日程**

（1）四国大学地域教育・連携センター運営委員会委員名簿(平成 28 年度)

NO.	氏　名	所属・職名等		選出条項等	担　当　等	
1	佐藤　一郎	理事長		規則第6条第1項第1号		
2	松重　和美	学長		〃　第2号	センター長 SUDAchi推進室長	
3	川本　幸彦	副学長		〃　第3号		
4	武知　公雄	事務局長		〃　第5号		
5	佐野　義行	企画監		〃　第6号		
6	村上　光明	法人事務部長		〃　第7号		
7	福井　清二	総務・企画部長		〃　第8号		
8	太田　　剛	文学部書道文化学科	教　授	〃　第4号	センター兼務教員	SUDAchi推進室
9	須藤　茂樹	文学部日本文学科	准教授	〃　〃		
10	本田　利広	経営情報学部経営情報学科	教　授	〃　〃		
11	福島　明子	経営情報学部メディア情報学科	講　師	〃　〃		
12	坂野美恵子	生活科学部生活科学科	教　授	〃　〃		
13	田中　裕子	生活科学部児童学科	教　授	〃　〃		
14	武田　道子	看護学部看護学科	教　授	〃　〃		
15	冨澤　栄子	〃	講　師	〃　〃		
16	津田　祐子	短期大学部人間健康科（介護福祉専攻）	教　授	〃　〃		
17	加渡いづみ	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科	准教授	〃　〃		
18	田中　省造	生涯学習センター	ｾﾝﾀｰ長	〃　第9号		
19	佐々木義登	全学共通教育センター	准教授	〃　〃		
20	宮井　浩志	地域教育・連携センター	准教授	〃　〃	南部地区ＳＳＯ担当	
21	有内　則子	生活科学部生活科学科	講　師	〃　〃	西部地区ＳＳＯ担当	
22	上野　　昇	〃	講　師	〃　〃		
23	松田　春菜	全学共通教育センター	講　師	〃　〃		
24	榎本　敬二	就職キャリア支援部	部　長	〃　〃	センター併任職員	
25	田村謙二郎	〃	参　事	〃　〃		
26	瀬部　昌秀	学部運営支援課	課　長	〃　〃	西部地区ＳＳＯ担当	
27	石田　義夫	総務・企画部	参　事	〃　〃	事務局	
28	石堂　真道	社会連携・国際課	課　長	〃　〃		
29	峪口有香子	〃	―	〃　〃	センター 地域連携コアコーディネーター	
（事務局等）						
30	徳山　直人	〃	―	西部地区ＳＳＯ担当	センター 地域連携コーディネーター	
31	久米　直哉	〃	―	南部地区ＳＳＯ担当		
32	里見　和彦	〃	―		創業支援クリエーター	
33	中西　孝平	〃	―			
34	久保知香子	〃	課長補佐		事務局	
35	仙田　清子	〃	主　査			
36	石濱　彩花	〃	―			
37	玉置　千裕	〃	―			
38	岩野　瑞紀	〃	―			

(2)四国大学地域教育・連携センター運営委員会委員名簿(平成 29 年度)

NO.	氏　名	所属・職名等		選出条項等	担　当　等	
1	佐藤　一郎	理事長		規則第6条第1項第1号		
2	松重　和美	学長		〃　第2号	センター長 SUDAchi推進室長	
3	川本　幸彦	副学長		〃　第3号		
4	武知　公雄	事務局長		〃　第5号		
5	佐野　義行	企画監		〃　第6号		
6	村上　光明	法人事務部長		〃　第7号		
7	福井　清二	総務・企画部長		〃　第8号		
8	須藤　茂樹	文学部日本文学科	教　授	〃　第4号	センター兼務教員	SUDAchi推進室
9	太田　剛	文学部書道文化学科	教　授	〃　〃		
10	本田　利広	経営情報学部経営情報学科	教　授	〃　〃		
11	近藤　明子	経営情報学部メディア情報学科	准教授	〃　〃		
12	坂野美恵子	生活科学部生活科学科	教　授	〃　〃		
13	田中　裕子	生活科学部児童学科	教　授	〃　〃		
14	武田　道子	看護学部看護学科	教　授	〃　〃		
15	冨澤　栄子	〃	准教授	〃　〃		
16	加渡いづみ	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科	教　授	〃　〃		
17	津田　祐子	短期大学部人間健康科（介護福祉専攻）	教　授	〃　〃		
18	田中　省造	文学部日本文学科	教　授	〃　第9号		
19	佐々木義登	全学共通教育センター	教　授	〃　〃		
20	宮井　浩志	地域教育・連携センター	准教授	〃　〃	南部地区ＳＳＯ担当	
21	有内　則子	生活科学部生活科学科	准教授	〃　〃	西部地区ＳＳＯ担当	
22	上野　昇	〃	講　師	〃　〃		
23	松田　春菜	全学共通教育センター	講　師	〃　〃		
24	榎本　敬二	就職キャリア支援部	部　長	〃　〃	センター併任職員	
25	田村謙二郎	〃	参　事	〃　〃		
26	真鍋　孝之	学部運営支援課	課　長	〃　〃	西部地区ＳＳＯ担当	
27	石田　義夫	総務・企画部	参　事	〃　〃	事務局	
28	石堂　真道	社会連携推進課	課　長	〃　〃		
29	峪口有香子	〃	―	〃　〃	センター 地域連携コアコーディネーター	
（事務局等）						
30	徳山　直人	〃	―	西部地区ＳＳＯ担当	センター 地域連携コーディネーター	
31	久米　直哉	〃	―	南部地区ＳＳＯ担当		
32	里見　和彦	〃	―		創業支援クリエーター	
33	吉田　寛夫	〃	―		創業支援クリエーター	
34	阿部　桂子	〃	課長補佐		事務局	
35	仙田　清子	〃	主　査			
36	玉置　千裕	〃	―			
37	岩野　瑞紀	〃	―			
38	喜多　周子	〃	―			

(3)四国大学地域教育・連携センター運営委員会委員名簿(平成 30 年度)

NO.	氏　名	所属・職名等		選出条項等	備　考
1	佐藤　一郎	理事長		規則第6条第1項第1号	
2	松重　和美	学長		〃　第2号	委員長
3	川本　幸彦	副学長		〃　第3号	
4	武知　公雄	事務局長		〃　第5号	
5	佐野　義行	企画監		〃　第6号	
6	村上　光明	法人事務部長		〃　第7号	
7	福井　清二	総務・企画部長		〃　第8号	
8	須藤　茂樹	文学部日本文学科	教　授	〃　第4号	
9	太田　　剛	文学部書道文化学科	教　授	〃　〃	
10	藤井　一郎	経営情報学部経営情報学科	教　授	〃　〃	
11	近藤　明子	経営情報学部メディア情報学科	准教授	〃　〃	
12	上岡　千世	生活科学部生活科学科	准教授	〃　〃	
13	兼間　和美	生活科学部児童学科	講　師	〃　〃	
14	武田　道子	看護学部看護学科	教　授	〃　〃	
15	冨澤　栄子	〃	准教授	〃　〃	
16	蔵谷　哲也	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科	准教授	〃　〃	
17	大寺　雅子	短期大学部幼児教育保育科	准教授	〃　〃	
18	田中　省造	文学部日本文学科	教　授	〃　第9号	
19	佐々木義登	全学共通教育センター	教　授	〃　〃	
20	宮井　浩志	地域教育・連携センター	准教授	〃　〃	
21	有内　則子	生活科学部生活科学科	准教授	〃　〃	
22	上野　　昇	〃	講　師	〃　〃	
23	松田　春菜	全学共通教育センター	講　師	〃　〃	
24	榎本　敬二	就職キャリア支援部	部　長	〃　〃	
25	田村謙二郎	〃	参　事	〃　〃	
26	安永　潔	学部運営支援課	課　長	〃　〃	
27	石堂　真道	総務・企画部	参　事	〃　〃	
28	桑原　渉	社会連携推進課	課　長	〃　〃	
29	峪口有香子	〃	―	〃　〃	
（事務局等）					
30	徳山　直人	社会連携推進課	―	西部地区ＳＳＯ担当	
31	久米　直哉	〃	―	南部地区ＳＳＯ担当	
32	平瀬　彰人	勝浦町		勝浦地区ＳＳＯ担当	
33	里見　和彦	社会連携推進課	―		
34	吉田　寛夫	〃	―		
35	仙田　清子	〃	主　査		
36	丸澤　美佐	〃	主　査		
37	藤野　江美	〃	―		

(4)徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会委員名簿(平成 28 年度)

	所属・役職	氏　　名	備　　考
1	徳島県 政策創造部県立総合大学校本部長	山 本 俊 也	
2	徳島県 政策創造部県立総合大学校副本部長	阿 部　　篤	
3	徳島県 南部総合県民局経営企画部長	塩 見 一 義	
4	徳島県 西部総合県民局企画振興部長	大 塚 二 朗	
5	徳島市 企画政策局企画政策課長	井 内 康 夫	
6	徳島市 企画政策局企画政策課 係長	吉田真由美	
7	美馬市 経済建設部商工観光課　課長	和 田 啓 明	
8	美馬市 経済建設部商工観光課　課長補佐	仲　　正 敏	
9	美波町 総務企画課長	礒 野 晴 幸	
10	美波町 総務企画課 主査	秋 山 和 彦	
11	(公)徳島経済研究所 専務理事	田 村 耕 一	
12	四国大学 学長 地域教育・連携センター長	松 重 和 美	委員長
13	四国大学 総務・企画部参事（社会連携担当）	石 田 義 夫	
14	四国大学 総務・企画部社会連携・国際課長	石 堂 真 道	

(5)徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会委員名簿(平成 29 年度)

	所属・役職	氏　　名	備　　考
1	徳島県 政策創造部県立総合大学校本部長	川 村 章 二	
2	徳島県 政策創造部県立総合大学校副本部長	阿 部　　篤	
3	徳島県 南部総合県民局経営企画部長	割 石　　容	
4	徳島県 西部総合県民局企画振興部長	丸 谷 修 一	
5	徳島市 企画政策局次長　兼　企画政策課長事務取扱	井 内 康 夫	
6	徳島市 企画政策局企画政策課 係長	板東　明宣	
7	美馬市 美来創生局観光課　課長	伊 内 公 一	
8	美馬市 美来創生局観光課　課長補佐	仲　　正 敏	
9	美波町 総務企画課長	礒 野 晴 幸	
10	美波町 総務企画課 主査	秋 山 和 彦	
11	勝浦町 企画総務課 地方創生推進室 室長	石 木 正 昭	
12	(公)徳島経済研究所 専務理事	荒木光二郎	
13	四国大学 学長 地域教育・連携センター長	松 重 和 美	委員長
14	四国大学 地域教育・連携センター コアコーディネーター	峪口有香子	
15	四国大学 総務・企画部参事（社会連携担当）	石 田 義 夫	
16	四国大学 総務・企画部社会連携推進課長	石 堂 真 道	
《 陪席 》			
17	徳島県 政策創造部県立総合大学校主任主事	町 田 千 尋	
18	徳島県　西部総合県民局企画振興部　にし阿波振興担当　係長	小山実千代	
19	徳島県　南部総合県民局経営企画部　地域振興担当　主任	柏原いつか	
20	勝浦町 企画総務課 地方創生推進室 主事	北 内 章 宏	
21	四国大学 総務・企画部社会連携推進課　課長補佐	阿 部 桂 子	
22	四国大学 地域教育・連携センター コーディネーター	徳 山 直 人	西部地区ＳＳＯ担当
23	四国大学 地域教育・連携センター コーディネーター	久 米 直 哉	南部地区ＳＳＯ担当
24	四国大学 地域連携特別コーディネーター	平 瀬 彰 人	勝浦地区ＳＳＯ担当
25	四国大学 総務・企画部社会連携推進課　創業支援クリエーター	里 見 和 彦	
26	四国大学 総務・企画部社会連携推進課　創業支援クリエーター	吉 田 寛 夫	
27	四国大学 総務・企画部社会連携推進課	喜 多 周 子	

(6)徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会委員名簿(平成 30 年度)

	所属・役職	氏　　名	備　　考
1	徳島県 政策創造部県立総合大学校本部長	川 村 章 二	
2	徳島県 政策創造部県立総合大学校副本部長	和田りか子	
3	徳島県 南部総合県民局地域創生部長	竹岡　幸子	
4	徳島県 西部総合県民局地域創生部長	新居美佐子	
5	徳島市 企画政策局企画政策課 課長	上田　誠吾	
6	徳島市 企画政策局企画政策課 係長	板東　明宣	
7	美馬市 企画総務部　次長	吉田　正孝	
8	美馬市 企画総務部企画政策課　課長補佐	仲　正 敏	
9	美波町 政策推進課長	岸 本 博 志	
10	美波町 政策推進課 事務主任	川 西 永 悦	
11	勝浦町 企画総務課 地方創生推進室 室長	石 木 正 昭	
12	(公)徳島経済研究所 専務理事	荒木光二郎	
13	四国大学 学長 地域教育・連携センター長	松 重 和 美	委員長
14	四国大学 地域教育・連携センター コアコーディネーター	峪口有香子	
15	四国大学 総務・企画部参事（社会連携担当）	石 堂 真 道	
16	四国大学 総務・企画部社会連携推進課長	桑 原　涉	
《陪席》			
17	徳島県 政策創造部県立総合大学校　主任主事	町 田 千 尋	
18	徳島県　西部総合県民局　地域創生部＜美馬＞　主事	原 田　恵	
19	徳島県　南部総合県民局　地域創生部　地域振興担当主任主事	吉田　祐輝	
20	勝浦町 企画総務課 地方創生推進室 主事	北 内 章 広	
21	四国大学 地域教育・連携センター コーディネーター	徳 山 直 人	西部地区ＳＳＯ担当
22	四国大学 地域教育・連携センター コーディネーター	松 浦 耕 平	南部地区ＳＳＯ担当
23	四国大学 地域連携特別コーディネーター	平 瀬 彰 人	勝浦地区ＳＳＯ担当
24	四国大学 総務・企画部社会連携推進課　創業支援クリエーター	里 見 和 彦	
25	四国大学 総務・企画部社会連携推進課　創業支援クリエーター	吉 田 寛 夫	
26	四国大学 総務・企画部社会連携推進課	櫻 井 怜 子	
27	四国大学 総務・企画部社会連携推進課	奥 谷 敦 子	

(7)新「あわ学」構築及び「あわ検定」実施に係る検討会委員名簿(平成 28 年度)

NO.	所属・職名等			氏　名	備　　考
1	徳島県政策創造部県立総合大学校副本部長			阿 部　　篤	
2	徳島県教育委員会教育文化課長			草 野 純 一	
3	徳島県教育委員会教育文化課主幹			結 城 栄 子	
4	徳島新聞社事業局事業部次長			立 石 秀 久	
5	四国大学	学長		松 重 和 美	委員長
6		文学部日本文学科	教　授	會 田　　実	
7		〃	准教授	須 藤 茂 樹	
8		短期大学部ビジネス・コミュニケーション科	准教授	加 渡 いづみ	
9		全学共通教育センター	准教授	佐々木義登	
10		地域教育・連携センター	准教授	宮 井 浩 志	
11		就職キャリア支援部	参　事	田村謙二郎	
12		学部運営支援課	課　長	瀬 部 昌 秀	
（事務局等）					
13	徳島県政策創造部県立総合大学校本部主任主事			町 田 千 尋	
14	徳島新聞社地域連携推進室			湯 浅 翔 子	
15	四国大学	教育支援課	課　長	赤 松 茂 樹	
16		総務・企画部	参　事	石 田 義 夫	
17		社会連携・国際課	課　長	石 堂 真 道	
18		地域教育・連携センター地域連携コアコーディネーター		木 村 政 文	
19		地域教育・連携センター地域連携コーディネーター		徳 山 直 人	西部地区SSO担当
20		〃		久 米 直 哉	南部地区SSO担当

(8)新「あわ学」構築及び「あわ検定」実施に係る検討会委員名簿(平成 29 年度)

NO.	所属・職名等			氏　名	備　　考
1	徳島県政策創造部県立総合大学校副本部長			阿 部　　篤	
2	徳島県教育委員会教育文化課長			臼 杵 一 浩	
3	徳島県教育委員会教育文化課主幹			藤 川 卓 司	
4	徳島新聞社地域連携推進室部次長			立 石 秀 久	
5	四国大学	学長		松 重 和 美	委員長
6	四国大学	文学部日本文学科	教　授	會 田　　実	
7	四国大学	〃	教　授	須 藤 茂 樹	
8	四国大学	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科	教　授	加 渡 いづみ	
9	四国大学	全学共通教育センター	教　授	佐々木義登	
10	四国大学	地域教育・連携センター	准教授	宮 井 浩 志	
11	四国大学	就職キャリア支援部	参　事	田村謙二郎	
12	四国大学	学部運営支援課	課　長	真 鍋 孝 之	
（事務局等）					
13	徳島県政策創造部県立総合大学校本部主任主事			町 田 千 尋	
14	徳島新聞社地域連携推進室			湯 浅 翔 子	
15	四国大学	教育支援課	課　長	赤 松 茂 樹	
16	四国大学	総務・企画部	参　事	石 田 義 夫	
17	四国大学	社会連携推進課	課　長	石 堂 真 道	
18	四国大学	地域教育・連携センター地域連携コアコーディネーター		峪口有香子	
19	四国大学	地域教育・連携センター地域連携コーディネーター		徳 山 直 人	西部地区SSO担当
20	四国大学	〃		久 米 直 哉	南部地区SSO担当

(9)新「あわ学」構築及び「あわ検定」実施に係る検討会委員名簿(平成 30 年度)

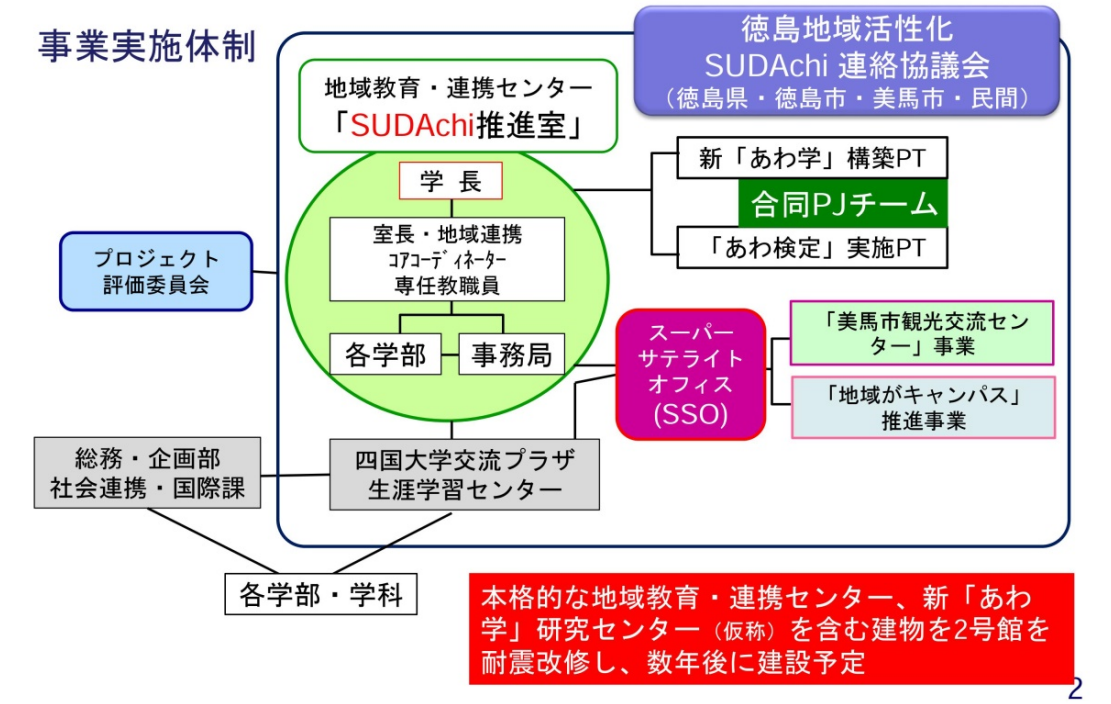
NO.	所属・職名等			氏　名	備　　考
1	徳島県政策創造部県立総合大学校副本部長			和田りか子	
2	徳島県教育委員会教育文化課長			木野内　敦	
3	徳島県教育委員会教育文化課主幹			藤川卓司	
4	徳島新聞社地域連携推進室			橋本真味	
5	四国大学	学長		松重和美	委員長
6		文学部日本文学科	教　授	會田　実	
7		〃	教　授	須藤茂樹	
8		短期大学部ビジネス・コミュニケーション科	教　授	加渡いづみ	
9		全学共通教育センター	教　授	佐々木義登	
10		地域教育・連携センター	准教授	宮井浩志	
11		就職キャリア支援部	参　事	田村謙二郎	
12		学部運営支援課	課　長	安永　潔	
（事務局等）					
13	徳島県政策創造部県立総合大学校本部主任主事			町田千尋	
14	徳島新聞社地域連携推進室			森本　潤	
15	四国大学	教育支援課	課　長	赤松茂樹	
16		総務・企画部	参　事	石堂真道	
17		社会連携推進課	課　長	桑原　渉	
18		地域教育・連携センター地域連携コアコーディネーター		峪口有香子	
19		地域教育・連携センター地域連携コーディネーター		徳山直人	西部地区SSO担当
20		〃		松浦耕平	南部地区SSO担当
21		地域連携特別コーディネーター		平瀬彰人	勝浦地区SSO担当

(10)あわ検定実施 WG に係る名簿(平成 29 年度)

NO.	所属・職名等			氏　名	備　　考
1	徳島大学　名誉教授			仙 波　光 明	
2	徳島大学　名誉教授			石 川　榮 作	
3	徳島大学　総合科学部　教授			岸 江　信 介	
4	徳島大学　総合科学部　教授			平 井　松 午	
5	四国大学	学長		松 重　和 美	委員長
6		文学部　日本文学科	教　授	友重　幸四郎	
7		〃	教　授	須 藤　茂 樹	
8		経営情報学部　経営情報学科	教　授	萩 原　八 郎	
9		生活科学部　生活科学科	講　師	上 野　昇	
10		生活科学部　管理栄養士養成課程	教　授	近 藤　真 紀	
11		〃	講　師	篠 宮　幸 子	
12		短期大学部　ビジネス・コミュニケーション科	准教授	蔵 谷　哲 也	
13		短期大学部　人間健康科　食物栄養専攻	教　授	植 田　和 美	
14		全学共通教育センター	准教授	元 木　佳 江	
15		地域教育・連携センター	准教授	宮 井　浩 志	
16		国際課	係　長	岩 木　太 郎	
17		地域教育・連携センター　地域連携コアコーディネーター		峪 口　有香子	
18		地域教育・連携センター地域連携コーディネーター		徳 山　直 人	西部地区SSO担当
19		〃		久 米　直 哉	南部地区SSO担当
20		地域連携特別コーディネーター		平 瀬　彰 人	勝浦地区SSO担当
（事務局等）					
21	四国大学　総務・企画部参事（社会連携担当）			石 田　義 夫	
22	四国大学　社会連携推進課			喜 多　周 子	

(11)あわ検定実施 WG に係る名簿(平成 30 年度)

NO.	所属・職名等			氏　名	備　　考
1	徳島大学　名誉教授			仙波　光明	
2	徳島大学　名誉教授			石川　榮作	放送大学徳島教育センター　所長
3	徳島大学　総合科学部　教授			岸江　信介	
4	徳島大学　総合科学部　教授			平井　松午	
5	四国大学	学長		松重　和美	委員長
6	四国大学	文学部　日本文学科	教　授	友重　幸四郎	
7	四国大学	〃	教　授	須藤　茂樹	
8	四国大学	経営情報学部　経営情報学科	教　授	萩原　八郎	
9	四国大学	生活科学部　生活科学科	講　師	上野　昇	
10	四国大学	生活科学部　管理栄養士養成課程	教　授	近藤　真紀	
11	四国大学	〃	教　授	髙橋　啓子	
12	四国大学	〃	講　師	篠宮　幸子	
13	四国大学	短期大学部　ビジネス・コミュニケーション科	教　授	加渡　いづみ	
14	四国大学	〃	准教授	蔵谷　哲也	
15	四国大学	短期大学部　人間健康科　食物栄養専攻	教　授	植田　和美	
16	四国大学	全学共通教育センター	准教授	元木　佳江	
17	四国大学	地域教育・連携センター	准教授	宮井　浩志	
18	四国大学	国際課	係　長	岩木　太郎	
19	四国大学	地域教育・連携センター　地域連携コアコーディネーター		峪口　有香子	
20	四国大学	地域教育・連携センター　地域連携コーディネーター		徳山　直人	西部地区SSO担当
21	四国大学	〃		松浦　耕平	南部地区SSO担当
22	四国大学	地域連携特別コーディネーター		平瀬　彰人	勝浦地区SSO担当
（事務局等）					
23	四国大学　総務・企画部参事（社会連携担当）			石堂　真道	
24	四国大学　社会連携推進課長			桑原　渉	
25	四国大学　社会連携推進課			櫻井　怜子	
26	四国大学　社会連携推進課			奥谷　敦子	



事業全体の実施体制

（平成26年　第2回学内フォーラム資料より）

各種委員会等開催日程）

平成28年度

5 月 27 日（金）	第1回地域教育・連携センター運営委員会
9 月 13 日（火）	第2回地域教育・連携センター運営委員会
1 月 19 日（木）	第3回地域教育・連携センター運営委員会
3 月 13 日（月）	第4回地域教育・連携センター運営委員会
6 月 30 日（木）	第1回徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会
2 月　1 日（水）	第2回徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会

平成29年度

4 月 17 日（月）	第1回地域教育・連携センター運営委員会
9 月 13 日（水）	第2回地域教育・連携センター運営委員会
3 月 19 日（月）	第3回地域教育・連携センター運営委員会
6 月 16 日（金）	第1回徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会
12 月 15 日（金）	第2回徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会

平成30年度

4 月 24 日（火）	第1回地域教育・連携センター運営委員会
10 月 9 日（月）	第 2 回地域教育・連携センター運営委員会
12 月 13 日（木）	臨時地域教育・連携センター運営委員会
3 月 18 日（月）	第 3 回地域教育・連携センター運営委員会
7 月 6 日（金）	第1回徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会
2 月 4 日（月）	第2回徳島地域活性化 SUDAchi 連絡協議会

SHIKOKU UNIVERSITY
四国大学

四国大学　地域教育・連携センター
［SUDAchi 推進室］

〒771－1192　徳島県徳島市応神町古川
Tel.088-665-9953　Fax.088-665-9983
E-mail.sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp